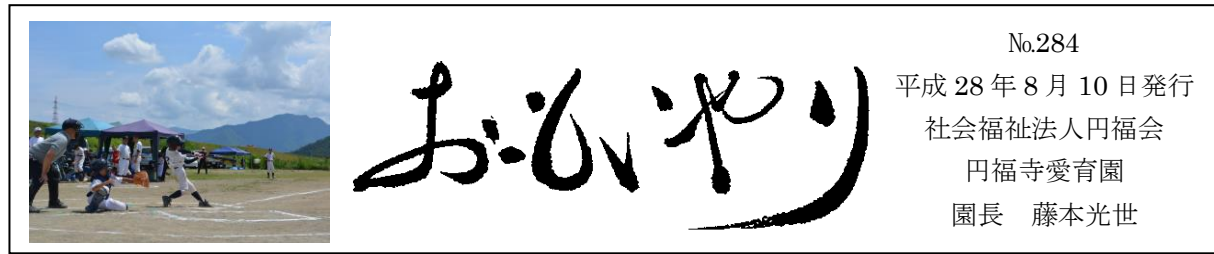


第一回円福杯球技大会特集号です。愛育園の総力を挙げて取り組みました。



No.284
平成 28 年 8 月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長 藤本光世

第一回円福杯球技大会

園長 藤本光世

おかげさまで円福寺愛育園が主催して、7/18,23 に第一回円福杯球技大会を開催することができました。この大会の開催にあたり、ご支援をいただいた関係各位に心より御礼申し上げます。

初めてのことですから、開催にあたっての不安がたくさんありました。それらをどのように乗り越えたかを書きたいと思います。

1. 参加チームがあるだろうか。

卓球は、円福寺檀家の柳澤健司さまのご紹介で、埴科卓球協会会長の中村徳雄さまのご援助をいただき、五加 JTC、長野 JTC、裾花長野 JTC、戸倉上山田中学校の参加により、小学校が 3 チーム、中高女子が 4 チームの総当たり戦でできました。

野球は、青谷副園長や日詰邦久さまのご援助により、坂城ガッツ、八幡スポーツ少年団、会御幣川の参加により、4 チームのトーナメント戦でできました。

2. 毎年の開催費用をどのようにしてねん出しようか。

どこかの団体にスポンサーになっていただくことを考えましたが、このご時世で難しく、理事の渡邊一正さまのご指導で、発起人を募り、円福杯球技大会後援会を作りました。後援会員になってくださった皆様、本当に有難うございました。

3. 優勝旗、優勝カップ、横断幕

千広建設さまから、創業 70 周年のお祝いに円福寺愛育園に多額のご寄付を頂戴しました。ありがとうございます。そのご寄付を生かして、立派な優勝旗・優勝カップを作ることができました。そして円福杯球技大会横断幕も作ることができました。

4. 青谷副園長

細かな準備や企画を一人でやってくれました。当初は、野球の監督の予定でしたが、日詰邦久さまが毎日ボランティアでおいでになり、野球の指導をしてくださいました。そのご支援があって、うまく回りました。

5. 日詰邦久さま

少年野球エラーズの名監督です。高校野球に教え子がたくさん出場しています。エラーズ杯野球大会を主催されて、たくさんの経験と開催のための用具などを円福寺愛育園の子どもたちの

ために支援していただきました。日詰さまがあって野球の部が成功しました。ありがとうございました。

当園の児童の指導には、ほとんど毎日おいでくださり、短期間で子どもたちの心を見抜いてのご指導は驚きでした。子どもたちは大きく成長しました。『俺は怒らなくなったなあ』と話されて、驚きました。そして『馬鹿は、馬鹿って言っていけばいいんだ。』の謙遜された、しかもお心そのままの姿勢にも驚かされました。ありがとうございました。すごいです。

日詰さまが当園の児童とつながっただけでも、この大会は大成功だったと思います。これからも野球のご指導と、野球を通しての子どもたちの心育をなにとぞよろしく願います。

終わってみて、感じたことを書きます。

これまでは、愛育園は地域から支援を受ける対象でした。子どもたちは社会的養護の中にあります。父の

施設は、愛の花園である。

憐れ(あわれ)な児童のために施設があるのではない。

施設があることによって、すべての児童が守られているのである。

国家は児童の父であり、社会は児童の母であり、施設は児童の家庭である。

児童はすべて、み仏の子である。

の言葉にあるように、社会は児童の母であり、社会がこの子どもたちを温かく支えていかなければなりません。それは、後援会に加入していただいた皆様のお心だったと思います。

でも、今回の大会はそれと共に、参加してくださった子どもたちに、大会の雰囲気と、試合の喜びと、参加賞と、優勝メダル、準優勝メダルなどをプレゼントする大会でもありました。そこには、子どもたちが社会の子どもたちと交流することにより、支えられ、支える、そのようなひと時があったと思います。

きっと、来年もさらに多くの皆様が参加してくださるでしょう。そんな予感がいたしました。ご



支援いただいた皆様、そして参加して下さった子どもたち、そして参加して下さった保護者の皆様関係者の皆様、ありがとうございました。

第1回 円福杯球技大会

副園長 青谷 幸治

地域の児童と交流し、お互いの良いところを学び合いより人間性を高め合うことのできる大会を目指し、第1回円福杯球技大会を開催することができました。7月18日には総勢40名の7チームが集まり卓球大会を。23日は総勢60名の4チームが集まり野球大会を開催することができました。特殊なルールの中どのチームも趣旨を理解し、白熱した大会を盛り上げてくれました。中高生は小学生を盛り上げ、試合をしやすい雰囲気を作り戦いました。勝っても負けても腐ることなく、礼儀正しく、明るく、チーム一丸となって優勝を目指して頑張る姿が印象的でした。他のチームに比べ愛育園のレベルは少し劣っていると感じましたが、来年こそは優勝旗・優勝杯を取り戻すために一年を通して取り組んでいきたいと思いました。第1回の円福杯を成功できたことは、円福杯実行委員会、円福杯後援会の皆様、参加していただいたチームの皆様のおかげだと感謝しております。また来年、今年以上の大会になるように素晴らしいものを作り上げていきたいです。盛り上げていただき本当にありがとうございました。



円福杯球技大会 卓球の部

中高生女子監督 石崎早織

7月18日は第一回円福杯球技大会卓球の部が開催されました。第一回ということで、私自身もどんな大会になるのだろうか、不安もありながらも、とても楽しみにしていました。卓球の練習を始めたのは、4月の下旬から。去年に比べると、練習量は少なかったものの、練習できる日はみんな集中して取り組むことができました。練習の様子を見ていると、去年よりも声を出せる子どもが増えたことや、道具の片づけを率先してやってくれる子どもが増え、とても成長を感じました。日々の練習のなかで、子ども達には勝つことも大事だけど、挨拶や、道具の片づけ、日々の生活の送り方が大事だという事を伝えてきました。これは去年も同じです。なので、4月に子ども達と発足式を行ったとき、一人ずつ目標を言ってもらおうと、毎日の生活をしっかり送るという言葉が出てきて、だんだんと私の言っていることが子ども達に伝わっていくことへの嬉しさを感じることができました。練習をしていけばうまくいくときもあれば、そうでないときももちろんあります。ラリーが目標回数に届かず、次の練習に進めないときも、お互い声を掛け励まし合いながら一つ一つクリアしてきました。こういった子どもたちの努力が技術面の向上へも繋がっていたように感じます。大会に当日はたくさんの方に参加していただき、中高生の部は4チームで勝敗を競い合いました。今までの球技大会であれば、相手がどのくらいの力を持っているのかはなんとなくわかっていましたが、

今回戦う相手は、全員初めての相手だったので、子どもと同じように私もとてもドキドキしていました。しかし、子どもたちの試合の様子を見ていると、練習でやってきたことが実践できていたり、一番良かったのは、自分の仲間を一生懸命応援していたことでした。また愛育園だけではなく、この大会に参加して下さったチーム全体が一生懸命卓球に取り組んでおり、本当に良い雰囲気の中大会が進んでいきました。お昼には調理の先生方おいしいトン汁を作ってください、みんなでトン汁を食べながら、他のチームの子ども達と緊張しながらも一生懸命話そうと頑張っている子ども達もおり、子ども達にとっても貴重な時間を過ごすことができたように感じます。また中高生の部では準優勝することもでき、子どもにとっても、わたしにとっても思い出に残る大会になりました。

またこの円福杯を開催するにあたり、本当にたくさんの方々のご協力があり、このような素晴らしい大会にすることができました。この大会を通じて出会った方々の繋がりを今後も大切に、来年度はもっと大きな大会になるよう、私も全力で頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

円福杯球技大会(卓球)

まごころ保育士 竹内早季

記念すべき第一回の「円福杯」が7月18日に行われました。私はまごころホームの中高生の卓球チームでマネージャーとして参加させていただきました。チーム発足から約3か月間、子ども達はほぼ毎日練習に励んでくれました。私はその練習に球拾いくらいしかお手伝いする事ができなかったのですが、練習に行くたびに真剣に取り組んでいる姿を間近で見ることができてとても幸せなことだなと感じています。大会前日に新しいユニフォームが披露されて、子ども達が歓声をあげて喜び、いよいよ大会だ！という雰囲気を感じ、選手ではない私も夜はなかなか眠れませんでした。あおぞらホームからの壮行会での応援や、優勝トロフィーなど準備の段階でたくさんの支援があったことも忘れてはいけません。そして、大会当日に相手チームを目の前にして、緊張はしていましたが正々堂々と戦おうという表情で試合に臨んでいて、自慢できるチームだなあとマネージャーという立場ではありますが誇らしくなりました。子ども達皆、真剣に仲間を応援していて誰一人自分だけ良ければ良いという姿は見られませんでした。一球一球を大切に、仲間と心を合せて戦



うことができ本当に良かったと思えました。結果は中高生準優勝ということでしたが、来年はもっと上を目指すという気持ちでまた頑張っていきたいです。

球技大会 卓球

まごころホーム保育士 小林礼

今回の球技大会は私が愛育園に来て初めての大会であり愛育園にとっても円福杯としてのこの大会は初めてということでしたので、第一回目の大会に立ち会うことができたことにとっても感謝しています。この球技大会を通して一番の収穫は普段見ることのないくらい真剣な子供たちの顔を見ることができたことでした。前日準備でユニホームを渡され一人ひとり抱負を発表する姿はみんな真剣で、今までの練習でつけた力を本気で出し切りたいという気持ちがこちらにもひしひしと伝わってきました。私は中高生チームのコーチを担当させていただきました。中高生はそれぞれ部活やアルバイト後の練習になるのですが、園内に卓球練習の放送が流れると疲れた顔や嫌な顔をする子は一人もおらず、みんな目を輝かせて体育館に移動し練習に取り組んでいました。自分が勤務で練習に参加することができないときも愛のことばの輪読は必ず児童棟まで聞こえてきます。それを聞いて自分自身も一緒に気持ちを引き締めていました。いよいよ当日。優勝杯、ユニホーム、横断幕...すべてが真新しく、そして本当に多くの方のご尽力の賜物であるこの大会は本当に素晴らしいものであると体育館を見回し感じました。各チームのアップがはじまり一気に子供たちの表情も強張り体育館にはピリピリとした空気が流れはじめました。その程よい緊張感の中試合が始まります。焦り、高揚から練習ではしないような無理なプレイをしてしまう子、練習通り落ち着いて一つひとつ丁寧に球を返す子、それぞれ戦い方は違いますが表情は真剣です。そして息をのんで試合を見守る私の横で試合に出ている子たちがどこのチームにも負けない大きな声で「ナイス！落ち着いて！ドンマイ！」と声を出しています。その表情も真剣です。私はそれを見て「は～これはすごいものを見せてもらった。園の子たちはこんなにも真剣で輝いた表情を見せるのだな。」と思わず感心し涙が出ました。一つのことばにただひたすら一生懸命になれるということは社会に出てからもとても大切になってくると私は思います。この気持ちを忘れず日々の生活も学校での学習も真剣に取り組んで欲しいと思います。そしてこれだけ素晴らしい表情を見せてくれた子供たちはきっと頑張れると期待が膨らみ、私自身も大会が終わり更に気を引き締め子供たちの日常生活のサポートにももっともっと力を入れようと強く思いました。ありがとうございました。



今年副キャプテンという大事な立場に立って、中高生をまとめたりと、とっても大変な仕事で

円福杯球技大会卓球 児童感想 <中高生>

今年副キャプテンという大事な立場に立って、中高生をまとめたりと、とっても大変な仕事で

した。副キャプテンになる前はとても不安でしたが、実際やってみると本当に大変な仕事でした。でもチームのみんなが助けてくれたり、キャプテンがいなく、上手にまとめられなくても、みんながそれぞれ動いてくれたのでとっても嬉しかったです。私にとって今年の第一回円福杯はよい思い出になりました。来年は優勝したいです。(中2 Y・O)

円福杯球技大会で私が心がけたことが3つあります。一つ目は「あいさつ」です。二つ目は弱気にならず絶対勝てるとポジティブに考えることです。三つ目はしっかり声を出すことです。他の人が試合をしているときに大きな声で応援できました。自分も試合をしているとき、他の人に応援してもらい、一人で戦っているのではないと心強く思え嬉しかったからです。来年は今年の球技大会よりももっといいものになるように、頑張りたいと思います。(中1 A・T)

円福杯卓球球技大会を終えて

まごころ保育士 上原美恵子

今年度も小学生卓球チームの監督として4月の発足式から子供たちと練習を重ねてきました。練習を始めるに当たってそれぞれ目標を決めたり、球上げの目標回数を決めたりしました。技術の向上も大切ですが、やはりふざけたり拗ねたりして周りに迷惑を掛けないようにすることや、出来ることは自分からやるようにして皆で協力して練習していくことを約束しました。この3ヶ月間を振り返ってみると、子供たちが練習を楽しみにしてくれて日々取組めたことや、監督やキャプテンの声がけに素直に行動できたことはとても良かったと思えました。

大会前に球上げの目標回数は全員が達成出来ていて、中には何百回も出来ている子がいたり、5回がやっとだった子もやっとコツを覚えて20回を超えることが出来てとても嬉しそうにしていました。又それぞれの目標についても自分の言葉で話が出来ていて子供達の成長を感じました。

初めての大会でしたので当日は一人一人とても緊張した様子でした。相手は一般のチームで練習しているお子さんですのでレベルの差は予想していましたが、一旦試合が始まると練習の中では見られなかった様な好プレーがいくつもあり本当に子供達の力はすごいなと感心しました。特に今回参加して下さったチームの監督さんの御配慮で当園の子供達のレベルに合わせて対戦していただき、大会を盛り上げて下さったことはとても感激で感謝の気持ちでいっぱいになりました。大会終了後に同じ小学生でもこうした思いやりの心は素晴らしいしことで子供達にもそうした人になってほしいことを話しました。



結果は3位でしたが子供達にとっては素晴らしい経験になったと思いますのでこれからも長くこの大会が続いて、益々盛大に開催され続けることを願ってやみませんでした。今回参加して下さった方々に心から感謝申し上げます。

第 1 回円福杯卓球大会

まごころホーム保育士 渡邊梓

7 月 18 日に第 1 回となる円福杯卓球大会が行われました。第 1 回大会は、五加 JTC と裾花長野 JTC の 2 チームを迎え、3 チーム総当たり戦を行いました。愛育園小学生チームは健闘しましたが、惜しくも第 3 位という結果でした。しかし、試合に出場した全員が最後まで諦めることなく、果敢に相手に挑んでいた姿、その仲間を精一杯の声で応援する姿はとても格好良く、金メダルをあげたくらいでした。

チームが結成されてからの 3 ヶ月間、私は小学生チームのマネージャーとして卓球練習に参加してきました。始めは、球上げが連続 10 回できず悔やんでいる子や、ラリー練習で思う場所に返すことができず苛立ち、悔しがっている子もいましたが、「もう 1 回やる！」と切り替える姿や、「さあ、もう 1 回！頑張ろう！」と励まし合う姿など、練習を重ねるごとに子ども達の成長を感じることができました。私も低学年とはラリー練習をしたり、高学年とは実践練習を兼ねて球の打ち合いをしましたが、毎回、気が付くと必死になっていました。それは、子ども達の真剣に練習に取り組む姿勢や、必死に球を追いかける姿勢が私自身を必死にさせていたのだと、大会を終えて改めて感じました。気持ちに足が追いつかなくなるほどに打ち合っ、大粒の汗を流し合っ感じたこの一体感を、私は忘れることができません。来年の卓球大会が今から楽しみで仕方ありません。



円福杯卓球大会 保育士 加藤ゆかり

7 月 18 日に、記念すべき第 1 回円福杯卓球大会がありました。私は、今年度は小学生のチームのマネージャーをやらせていただきました。4 月に発足し、約 3 ヶ月という練習期間でしたが、子ども達はとても前向きに練習に取り組んでおり、「今日は球上げ 100 回超えたよ！」「ラリーが続くようになったよ！」と出来るようになったことを嬉しそうに伝えてくれました。徐々に上達していく姿が見て取れました。しかし、当日戦う相手は卓球クラブに所属しているレベルの高い相手という事もあり、子ども達自身も監督・マネージャーも正直不安な気持ちがありました。そして迎えた当日。準備して頂いたユニフォームに身を包み、子ども達は気合十分！試合では、レベルの高い選手に必死についていく姿が見られました。その姿を見て、子ども達の底力を感じました。子ども達の応援にも熱が入り、「ナイス！」「どんまい！」「もっと動いて！」など、真剣に応援していました。結果は、惜しくも 3 位でしたが、この約 3 ヶ月の中で、卓球のスキルは勿論、チームワーク、礼儀、色んな事を学べた良い機会になったのではないかな、と思いました。大会終了後、「来年は優勝したい！」という声も多々聞こえてきました。その気持ちを忘れず、来年に生かして行ってほしいな、と思いました。大会を企画・運営して下さった園長先生始め、副園長先生、石崎先生、また、サポートしてくれたあおぞら職員、児童のみなさん、ありがとうございました。

円福杯球技大会卓球 児童感想 <小学生>

今年私はキャプテンをしていましたが、あまり練習に参加することができず、不安いっぱい本番を迎えました。小学生チームは 2 チームきてくれ、それぞれ戦いました。結果は 3 位になりましたが、一生懸命できたので良かったです。またお昼ご飯の時に他のチームの子と話をすることができ、とても楽しかったです。(小 6 H・W)

閉会式の時、優秀賞が発表され、その時に私の名前が呼ばれ「えっ！！」と思いました。けど金メダル(優秀賞)をもらえたので嬉しかったです。とても楽しい第一回円福杯球技大会でした。(小 5 A・M)

第一回円福杯球技大会

あおぞら 保育士 近藤 典雄

平成 28 年 7 月 23 日よいよ第一回の円福杯がスタートしました。今年の 4 月から野球、卓球のチームが発足してから毎日のように、平日は学校から帰ってきてからすぐに、休日は夕方 4 時からグラウンドに行き練習を重ねてきました。今年は篠ノ井エラーズ監督の日詰さんをコーチとして迎え野球の技術的なこともそうですが野球に対する姿勢や普段の生活の大切さなどさまざまなことを指導していただきました。子供たちもそんな日詰さんの教えを一つ一つ吸収しようと毎日頑張っていました。

そして、いよいよ当日を迎え準備に頑張る中高生、試合まで緊張しながらも、楽しそうに始まるのを待っている小学生などそれぞれでしたが、開会式が始まり第一試合が始まりました。初戦は八幡スポーツ少年団とでした。初めての公式戦でみんなから緊張しているのが見て取れましたが、いざ試合が始まると元気よくグラウンドに走って行きました。結果として試合には負けてしまいましたが小学生中心によく頑張ったと思います。

お昼を挟んで、二回戦が始まりました。二回戦目は会・御幣川と戦いました。二回戦目は中学生も学校行事から戻ってきて一進一退の試合展開になりました。

最終回には一点差で負けていましたが追いついて相手の攻撃の回を守れば延長戦でしたが最後はサヨナラ負けしてしまいました。試合に出ている子も出ない子も最後まであきらめずよく頑張ったと思います。

閉会式が終わって第一回円福杯球技大会はどこおりなく終わることができました。準備から片付けまでみんなよく手伝ってくれて本当にいい大会になったと思います。来年さらにいい大会になるようにまた今度は優勝できるよう子供たちと一緒に盛り上げていきたいです。

第一回 円福杯球技大会

保育士 佐々木 弘観

7 月 23 日に「第一回円福杯球技大会 野球の部」が開催されました。



今年度から、外部コーチとして篠ノ井エラーズの監督をされていた日詰さんをお招きしての練習を行ってきました。昨年度までの練習とは一味も二味も違い、実戦を想定した練習を多くして励んできました。また、準備や挨拶、練習中の道具の扱い方など、試合に勝つことや上手くなること以外の野球人として大切なことも学んできました。

大会直前の一週間前から子ども達は何人も流行りの夏風邪にかかり、練習も人数が足りないうちでやっており、大会に出られるかどうか不安がよぎりましたが、何とか大会当日までには全員の体調は快復して無事に大会に参加することができました。

結果には負けてしまいましたが、4月から4ヶ月ほど行ってきた練習を経て、野球の試合に勝つこと以外に、道具の扱いや挨拶など大切なことを多く学んできました。

来年は、挑戦者として挑みます！暑い夏はまだまだこれから！次はキャンプ！皆で一丸となってやっていきたいと思えます。



あおぞら保育士 富沢正樹

第一回円福杯球技大会野球

7月23日、第一回円福杯球技大会 野球の部が行なわれました。愛育園が主催となって行う初めての球技大会。この大会に向けて、子ども達は3か月間、毎日一生懸命練習してきました。

小学生3年生の男の子は、去年までボールを怖がって、キャッチボールもロクに出来ずに野球に消極的だったのですが、今年は、練習の3か月間で、ゴロをとってファーストに送球することができたり、バットを振って打つこともできるようになりました。上達していく事が嬉しくて、毎日、夕方の練習時間になるとグラウンドへ駆け出していき、自分から相手を見つけて「キャッチボールしよう」と声を掛ける姿は、一年前と別人の様でした。

他にも、小学6年生のK君はピッチャーに挑戦して、3か月間でものすごくいい球を投げられるようになりました。普段は物事をする時に自己流でやってしまう事の多いK君ですが、教えてくれる日詰コーチの話を熱心に、そして素直に聞いており、その姿も含めて大きく成長しました。



また、小学生、中学生、高校生の混合チームの中で、それぞれが役割をもって結束力を高めていかなければならない中、時に、練習に熱くなり過ぎて、中学生が小学生に強い言い方をして小学生が拗ねてしまうという事もありました。それでも、その後、冷静になって「さっきの言い方は良く

なかった、ごめんね。」と言葉をかけられる事ができました。

そんな中で練習を重ね、個人個人、またチームとして徐々にレベルアップしていきました。日詰コーチいわく、「初めて来て、練習を見た時は、試合の出来るレベルではなかった」そうですが、熱心で温かな指導の下、大会前には、練習当初のチームとは違うチームになりました。

大会の当日、試合の結果は4チーム中4位で終わってしまいましたが、初めての大会でみんな一生懸命に最後まで戦いました。「来年こそは！」という気持ちで終えた子が多かった様に思います。

大会や練習を通じて、私達職員も多く学ぶことがあり、野球の技術面だけでなく、挨拶や道具の扱いなどを中心に、もっともっと人や物に対する感謝や気持ちの良い行動がとれる様にしていかねばならないと感じました。また、こういった地域の方々と触れ合える機会を無駄にしない様にしていきたいと感じました。

第一回 円福杯 (野球)

保育士 藤本 諒一

7月23日、前日まで天気が心配されましたが見事に晴れわたり「第1回 円福杯 野球の部」が行われました。4月にチームを発足して、篠ノ井エラーズの監督の日詰さんをコーチにお招きして3ヶ月にわたる猛練習の日々が続きました。子ども達の中には、学校から帰ってきてすぐに野球の練習をして夕食後に眠い目をこすりながら宿題に取り組んでいる子や試験勉強に取り組む子など野球以外のところでもとても頑張っていました。



試合当日、一回戦の相手は「八幡スポーツ少年団」でした。最初は体の動きが固かったり、声が出ていなかったりと子ども達の緊張が伝わってきました。しかし、回が進むにつれて普段の練習通りのプレーがでたり、ホームランが出るとベンチ全体で大喜びしました。結果は負けてしまいましたが、すごく充実した試合になったと思います。

二試合目の相手は「会・御幣川」チームでした。この試合から中学生も合流して、初回から一進一退の攻防が続きました。高校生の子がホームランになりそうな打球を必死に追いかけて、怪我を恐れず飛びついてダイビングキャッチをした瞬間、その場にいた人全員が歓声をあげたことと思います。結果的にはサヨナラ負けを喫してしまいましたが、二試合とも最後まで諦める子は誰もいませんでしたし、その後の片付けや道具の整理も最後までキッチリやってくれました。

この三ヶ月の練習を通して、物を大切に扱うことはもちろんですが挨拶であったり道具や人に対して感謝することを学ばせていただきました。これから、野球の練習がなかったとしても

普段の生活に活かせるよう意識を高めて過ごしていきたいと思います。

第一回円福杯球技大会 児童感想

私は円福杯球技大会野球の部に参加しました。一回戦の相手は八幡スポーツ少年団でした。正直、私が何とかしてチームを勝たせなければいけないと思うと少し緊張しました。いざ試合が始まると、その緊張感もちょうどいいものとなり、そこそこの活躍ができました。けれどもチームとしては負けてしまいました。



私がやるべきことは、私が活躍するだけでなくチームのみんなの緊張をほぐして、思いっきりよくプレーできるようにさせてやることだったんだと今になって反省しています。

二回戦、相手は会・御幣川でした小学生は見た感じのびのびできていてよかったと思いました。第一回円福杯球技大会、結局一回も勝てなかったけど、記念すべき第一回に選手宣誓ができて光栄でした。それにいろいろ大切なことも学べて良かったです。

円福杯第一回球技大会

7月23日に円福杯第一回球技大会をやりました。僕は最初サードを守りました。サードを初めてやった時はむずかしいと思いました。緊張して声あまり出ませんでした。ピッチャーが変わって僕もサードからキャッチャーに変わりました。僕はリードして外角のボールを多く投げさせて抑えることができました。打つほうでは三番に入り初回はフォアボールを選びました。次の打席でもなんとか塁に出ることができました。一試合目は負けてしまいました。



お昼には調理の先生に豚汁とおにぎりときゅうりの塩漬けを作ってもらいとても美味しかったです。

二試合目は会・御幣川と対戦しました。初回到点が入って勢いづきましたが最終回までもつれて最後はサヨナラ負けになってしまいました。第一回球技大会は4位だったけど来年は優勝旗をとれるようにしたいです。

第1回円福杯球技大会 トン汁づくり

調理主任 伊藤 慈子

今年初めて、円福杯球技大会が開催されました。7月18日(月)には卓球大会、7月23日(土)

には野球大会が行われました。

子ども達が日々練習を頑張っている中、私達調理は、豚汁とおにぎり作りを任せられました。おにぎりは、来賓の方々と愛育園の子ども達と職員の分を作り、豚汁は、愛育園だけでなく、対戦チームの選手とその関係者の方々の分も作り、振る舞うことになりました。そして丁度、園の畑で採れたきゅうりが沢山あったので、前日に浅漬けにして、当日出すことにしました。

7月18日、卓球大会が愛育園の体育館にて行われている中、厨房ではおにぎりや豚汁づくりが始まりました。大鍋2つ分の豚汁の材料は、とても多かったので前日に切れるものは切っておき、当日はおにぎり作りと並行して、すぐに煮始める事が出来ました。そして、その豚汁を食べる園庭の



食事会場づくりは、『あおぞら』の子ども達が率先してやってくれていました。12時半、昼食の時間です。愛育園の『まごころ』の子ども達と他のチームの選手は、親睦も深めるため園庭で、来賓の方や『あおぞら』の子ども達は、食堂にて食べました。豚汁は、食堂の大きな窓を外し、その窓際からどんぶりに盛り出しました。きゅうりは、皿に切り分けテーブルごとに置き、取り回しで食べて頂きました。やはり大きなお鍋でたくさんの材料を煮込んだ豚汁はとて美味しく、きゅうりの浅漬け・おにぎりとの組み合わせは最高で、とても好評でした。皆さんにおいしく食べてもらい、とてもうれしく思いました。

7月23日、野球大会は横田グラウンドにて行われました。今回の豚汁は、外で作ります。前日までに、ガスコンロとボンベを用意していただき、その他の持ち物(水・どんぶり容器・わり箸・おしぼり紙コップ・調味料・お玉・着火剤・ゴミ袋など)も、用意できるものは用意して運べるようにしておきました。今回は、豚汁を食べて頂く方がもっと増えるので、大鍋3つ作ることにしました。前回と同様、材料は前日に切り、当日は園の厨房でおにぎりを作り終えてから、グラウンドへ行き豚汁を作りました。天気の良い暑い日でしたが、テントを張ってもらっていたので、おいしく作る事が出来ました。卓球の時とは違い、試合を見ながら作る事が出来たので、調理もみんなと一緒に応援し、子ども達の活躍が見られ、喜びも悔しさも共に味わう事が出来たと、言っていました。私は、都合で休みを取っていたため、参加できませんでしたが、他の調理の仲間が、暑い中とても頑張ってくれ、豚汁は大盛況で『おかわり』もたくさんしてくれたようでした。

地域の方や一般の方々と、試合を通してふれあい競い合い、実力を知り、そしてみんなで同じ

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

豚汁を食べ、とても素晴らしい交流の機会になったのではないかと思います。子ども達の顔も、とても真剣で、緊張感のあるいい顔でした。この事が、良い刺激になり、これからの子ども達の生活や、来年の円福杯につなげていってほしいと思いました。

暑い中、毎日毎日、子ども達は練習を頑張り、ホーム職員はサポートしていました。私達調理が携わったのは、前日の壮行会・当日の豚汁づくり・慰労会と、時間的には少ないものでしたが、子ども達の『ありがとう。ごちそうさまでした。』の言葉が嬉しく、感動と達成感がありました。ありがとうございました。

第1回 円福杯球技大会 栄養士兼調理員 原 未華

7月18日に女子の卓球大会、7月23日に男子の野球大会がありました。卓球、野球ともかっこいいユニホームを着た子どもたちの姿はたくましく思えました。

18、23日の2日間、豚汁を振舞わせていただきました。18日の卓球大会では大鍋2つ分の豚汁を作りました。時間を見ながら、2階の体育館で行っていた卓球の応援に行きました。懸命にピンポン玉を相手コートに返す光景や得点が決まったときの笑顔、1人のプレーヤーを全員で応援しているなど輝かしい姿でした。

23日は、グラウンドにてガスとガスコンロを用意と設置をしていただき、今度は大鍋3つ分の熱々の豚汁を作りました。この日は日差しが強く暑かったですが、男の子たちは夏の暑さにも負けない闘志全開でした。

投げて、打って、走って、守って、1人1人が全力でカバーしあって学年や年齢がそれぞれ違っても、一致団結して勝利を全員でつかむという熱意がとても伝わってきて感激しました。豚汁も大勢の方々に食べて喜んでいただき、調理側としてもうれしい限りでした。

2日間、子どもたちの一生懸命プレーしている姿を見させていただきました。喜びも悔しさもある中で、多くのことを感じてさまざまなことにチャレンジしてほしいと思います。たくさんの感動をいただきました。

ありがとうございました。

第1回円福寺球技大会 調理員 宮沢 まき江

7月18日卓球大会、23日野球大会と子どもたちは暑さに負けることなく熱い戦いに挑戦しました。

私たち調理は2日共に豚汁を提供致しました。卓球時は園の2F 体育館でしたので調理室で大鍋を2鍋、具沢山の美味しい豚汁を作りました。

卓球は女の子たちの戦いだったので、男の子が裏方になりとても気をきかせてくれて大変、助かりました。

野球時は、グラウンドにガスとガスコンロを用意していただき大鍋3鍋で作りました。頑張っている子どもたち、各々の監督さん、先生方、家族の皆様喜んで頂けるように心を込めて作らせて頂

(平成28年8月10日発行 月刊「円福」481号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

きました。一試合が終了しお昼となり、4チームの皆様に出しました。ありがたいことにたくさんの方がおかわりをしてくださり、作り甲斐がありました。

そして、午後の試合は調理もしっかり応援させていただきました。今年で卒園のT君。高校の野球部で今までずっと朝早くから頑張ってきた姿を見ていました。その彼の野球の姿を見ることが出来ると、ワクワクしながら応援をしていました。

さすがに素晴らしい場面を幾度となく見せてくれました。小学生、中学生、高校生と混ざったチームで今まで見たことがない子どもたちの声の掛け合い、それに答える相槌等、目頭が熱くなる場面も多々ありました。

試合終了直前、キャッチャーのH君、悔しさに溢れ泣き崩れてしまいました。私は思わず「この悔しさをバネに少年野球で頑張ろう」と頭を撫でてしまいました。

子どもたちの本気の姿に感動させていただきました。

暑い中、お疲れ様でした。

豚汁 調理員 窪田 霞

7月23日に第一回円福杯野球大会が行われました。私たちはおにぎりや豚汁を作ることになりました。大会の前日はできるものを用意しました。野菜のカットをしたり下ゆでをしました。

今回外で煮ることになったので、私たちはとても不安でした。園長先生からも「火の扱いを気を付けてください」と心配してくれました。不安の中で当日を迎えました。

当日は自分が早番でした、朝食の片づけが終わったすぐ、ほかの先生が来てすぐしごとが出るように準備をしていました。おにぎりを作る時に女子の高校生たちとまごころの先生も一緒に手伝ってくれました。そのおかげでおにぎりも時間内にできました。

荷物を青木先生におねがいして、私たちもグラウンドに行きました、着いてすぐに用意されたガスコンロに鍋をセットし、野菜を入れ煮込み始めました。心で「おいしくな〜れ」と願いました。園児たちの応援をしながら豚汁の味付けをしたり、お昼の準備をしていました。園児たちを応援しているうちに、豚汁もだんだんできあがってきました。蓋を開けた瞬間に、みんな思わず「おいしう〜」と言葉がでていました。その時自分は早くみんなに食べてもらいたいなあ〜と思いました。

午前中の試合が無事に終わりました。そしてお昼の時間がやってきました。各チームの親御さんたちと子供たちが列になって豚汁をもらいに来ました。まるで、お祭りの屋台をやっている気分でした。とてもわくわくしていました。とても暑い日差しの下でみんなが美味しそうに豚汁を食べているのが見て、私たちは不安の気持ちから解放されました。たくさんの人たちがおかわりに来てくれました。食べ終わったチームの監督はじめ子供たちは私たちの目の前に一列にして「御馳走様でした」、「美味しい豚汁をありがとうございました」と、お礼を頂きました。みんなに満足していただいたようでやってよかったなあと思いました。

来年も同じようにみんなと協力してもっといいおもてなしが出来るようにしたいと思います。

